

県内の患者数

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	↗ 4	0	百日咳	→ 0	0
RSウイルス感染症	↘ 106	121	ヘルパンギーナ	↗ 6	5
咽頭結膜熱	↘ 27	39	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	↘ 3	8
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↘ 33	62	急性出血性結膜炎	→ 0	0
感染性胃腸炎	↘ 284	325	流行性角結膜炎(はやり目)	↗ 21	13
水痘	↘ 22	27	細菌性髄膜炎	↗ 3	0
手足口病	↘ 32	42	無菌性髄膜炎	↗ 2	1
伝染性紅斑(りんご病)	→ 0	0	マイコプラズマ肺炎	↘ 1	2
突発性発しん	↘ 39	43	クラミジア肺炎	→ 0	0
			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0	

報告が多い感染症

- 感染性胃腸炎
- RSウイルス感染症
- 突発性発しん

- 感染性胃腸炎 報告数:284件(前週:325件) 地区別:有明、人吉、菊池 年齢別:1歳57件(20.1%)
- RSウイルス感染症 報告数:106件(前週:121件) 地区別:八代、熊本市、菊池 年齢別:1歳47件(44.3%)
- 突発性発しん 報告数:39件(前週:43件) 地区別:菊池、八代、水俣、有明 年齢別:1歳未満22件(56.4%)

※今週から感染性胃腸炎(ロタウイルス)が追加になりました。県内15医療機関において、迅速検査でロタウイルスと診断された患者の数です。

◆◆◆保健所別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

保健所名	インフル	RSウイルス	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎(ロタウイルス)
熊本市保健所		56	5	11	62	4			15			1		18	3	2	1		
山鹿保健所		1	2		20	1	7		1				*	*					
菊池保健所	3	12	15	13	51	5	15		8		1	2		3					
阿蘇保健所					5								*	*					
御船保健所		1			8								*	*					
八代保健所		14	2	1	28		3		4										
水俣保健所		3							2				*	*					
人吉保健所		1		1	32	2			1				*	*					
有明保健所	1	8	1		55	8	6		5		1		*	*					
宇城保健所		9	1	7	7	1			1				*	*					
天草保健所		1	1		16	1	1		2		4								
計	4	106	27	33	284	22	32	0	39	0	6	3	0	21	3	2	1	0	0

◆◆◆年齢別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

インフルエンザ定点	合計	0~5カ月	6~11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14歳	15~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80歳以上
インフルエンザ	4				1									1		1					
小児科定点年齢	合計	0~5カ月	6~11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14歳	15~19歳	20歳以上						
RSウイルス感染症	106	16	22	47	14	3	2		1						1						
咽頭結膜熱	27		4	5	1	4	3	4	1	2	1	1		1							
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	33				2	2	8	5	2	7	2	2		2	1						
感染性胃腸炎	284	7	26	57	26	19	21	22	15	14	12	7	31	6	21						
水痘	22			8	5	3	2	2					2								
手足口病	32	1	3	10	8	3	2	1	1				2		1						
伝染性紅斑	0																				
突発性発しん	39		22	15				1					1								
百日咳	0																				
ヘルパンギーナ	6		2	2			1		1												
流行性耳下腺炎	3				1					1	1										
眼科定点年齢区分	合計	0~5カ月	6~11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14歳	15~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	
急性出血性結膜炎	0																				
流行性角結膜炎	21			1	1	1							1	1	4	6	4	2			
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1~4歳	5~9歳	10~14歳	15~19歳	20~24歳	25~29歳	30~34歳	35~39歳	40~44歳	45~49歳	50~54歳	55~59歳	60~64歳	65~69歳	70歳以上				
細菌性髄膜炎	3									1		1					1				
無菌性髄膜炎	2						1														
マイコプラズマ肺炎	1				1								1								
クラミジア肺炎	0																				
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0																				

大きな流行が発生
又は継続しつつある地域

- 咽頭結膜熱 : 菊池
- 手足口病 : 菊池

腸管出血性大腸菌感染症の発生が続いています



先週5件、今週5件と腸管出血性大腸菌感染症の報告が続いています。この病気は一般的に夏場に多く発生しますが、例年11月頃まで発生報告が続きますので、引き続き予防対策の徹底が必要です。腸管出血性大腸菌感染症は、菌に汚染された飲食物を摂取するか、患者の糞便で汚染されたものを口にするのが原因となります。そのほかに、動物への接触などによる感染事例も知られています。腸管出血性大腸菌は強い感染力を持ち、少量の菌で発症する可能性があります。乳幼児やお年寄りが発症すると症状が重くなりやすく、特に注意が必要です。食肉の十分な加熱処理や、手洗いなどにより予防を徹底しましょう。

【予防の3原則】

- ① 菌を殺す
 - ・肉の生食は避け、十分に加熱しましょう。目安は75℃で1分以上加熱することです。
 - ・井戸水などの生水を飲む場合は、十分に煮沸しましょう。
- ② 菌を増やさない
 - ・調理後は早く食べましょう。
 - ・食品を保存する場合は、室温に長く放置しないようにして、冷蔵庫で保存しましょう。ただし冷蔵庫に入れても、細菌はゆっくりと増殖しますので、冷蔵庫を過信せず、早めに食べることが大事です。
- ③ 菌をうつさない
 - ・トイレの後、調理や食事の前、動物に接した後は十分に手を洗いましょう。
 - ・調理器具は、使用の都度、きれいに洗いましょう。
 - ・肉を焼くときの取り箸は専用にして、口に入れないよう注意しましょう。



KKT 医療ナビ! Dr. テレビたん
<http://www.dr-tvitan.jp/>

情報提供: 熊本県健康福祉部 健康危機管理課